

press release

Hiroshima Prefectural Art Museum
広島県立美術館
新館時代の30年
—30 Years of the New Building Era

COLLECTION EXHIBITION



広島県立美術館
新館時代の
30年

Hiroshima Prefectural Art Museum
—30 Years of the New Building Era

2026 4|24 金 → 7|20 月 祝

【開館時間】9:00～17:00 ※金曜日は20:00まで開館 ※入場は開館の30分前まで
【休館日】月曜日（特別展の会期中・祝日・振替休日を除く）
【入館料】一般510(410)円／大学生310(250)円 ※（ ）内は20名以上の団体
【観覧券共通券】一般660円／大学生350円 ※特別展は別料金
○高校生以下無料 ○当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
○障害者手紙をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料（1階総合受付でお申し出ください）。

フリートークデー

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう！
5|17 日
6|21 日
7|19 日

所蔵作品展

第 1 期



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

2階展示室

<https://www.hpam.jp/>

〒730-0014 広島市中区上郷2-22
tel.082-221-4246 fax.082-221-9444

【概要】

所蔵作品展第1期

「広島県立美術館 新館時代の30年」

1968（昭和43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,400点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展は、本県ゆかりの巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」と、1968年開館し、1996年のリニューアルオープン後の美術館活動を作品と資料で振り返る「広島県立美術館 新館時代の30年」の2本立てとし、当館コレクションを新たな視点で紹介いたします。

皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーやリレートーク、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。また、毎月第3日曜日のフリートークデーも継続いたします。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、努力を重ねてまいります。今後の当館の活動にもご期待ください。

【第1展示室】

第1室 新館時代の30年—西洋美術の名品、バウハウスを中心に

新館オープンに合わせて、新しい収集重点方針のもと、1920～30年代に制作された西洋美術作品を収蔵しました。

両大戦間期と呼ばれるこの時期ヨーロッパ諸国では革新的な美術の動向が多く生まれました。例えば、第一次世界大戦の終戦から間もない1919年には、ドイツで造形学校バウハウスが開校します。初代校長ヴァルター・グロピウスは「すべての造形活動の最終目標は建築である！」とうたい、合理性と芸術性を共存させた暮らしの空間を生み出そうとしました。

さて、旧館時代、当館の展示壁面には有孔パネルが用いられていましたが、現在の新館では、作品の鑑賞に集中できるよう、白い壁面で構成されたホワイトキューブ型の展示室を擁しています。こうした手法の先駆けはニューヨーク近代美術館（1929年開館）といわれますが、そこにはバウハウスが1920年代に手掛けた白い室内空間の影響が見られます。バウハウスの思想は、今日にも根付いているのです。

この部屋では、芸術と生活との融合を目指したバウハウスの教員であった、ライオネル・ファイニンガーやパウル・クレー、ワシリー・カンディンスキーらの作品などを出品するとともに、建築と人々をともに描いたベン・シャーンらの名品を新館開館30年のこの機会にご紹介します。



ライオネル・ファイニンガー《海辺の夕暮》1927年

【第2展示室】

第2室 新館時代の30年-日本洋画の名品、収集の歩み

このたびの展示では、特別収集の期間に収集された作品と、リニューアルオープンから今までに収集された作品、その双方から特色ある作品をご紹介します。

特別収集の期間を振り返ると和田三造、萬鐵五郎、松本竣介など、美術史上の重要作家の作品を重点的に収集していたこと、また、榎原慶喜や、入野忠芳といった当時の若手・中堅作家の作品も購入し、作家の顕彰を通して、美術館も地域文化の活性化に貢献しようとしていたことがわかります。

リニューアル後は、さまざまな篤志家の方々から多くの作品をご寄贈いただいています。その中には、田中万吉、檜山武夫など戦前の広島洋画壇を牽引した作家たち、あるいは、巖谷、山路商といった、戦時中の広島洋画壇で中核を担った作家、さらには、菅井汲、高橋秀など戦後国際的に活躍した作家の作品なども含まれています。この展示でご紹介できるのは、ほんの一部ですが、広島ならではの力強いコレクションが形成されていることを感じていただけることと思います。どうぞゆっくりとご鑑賞ください。



菅井汲《V10》1980年

【第3展示室】

第3室 新館時代の30年——日本画の名品、収集の歩み

旧館時代の主な所蔵作品は、^{こだまきぼう}児玉希望や^{わだかせつじ}和高節二ら広島ゆかりの日本画家からの寄贈によるもので、それを礎として当館の日本画コレクションは形成されてきました。

1991（平成3）年から新館開館までの5年間には、広島県ゆかりの作品として^{ひらやまいくお}平山郁夫、^{おくだげん}奥田元^{そう}宋を中心に、^{まるきいり}丸木位里、^{ふなだぎよくじゅ}船田玉樹らの作品を収集しました。また、新たに策定された「美術品等特別収集基本方針」に基づき、近代日本画確立期の作品として^{かわばたぎよくしょう}川端玉章、^{ひしだしゅんそう}菱田春草、^{たけうちせいほう}竹内栖鳳らの優品を収蔵しました。

さらに近年では、^{さとみうんれい}里見雲嶺や^{かとうせいひん}加藤清彬など、戦前の広島で活躍した重要作家の作品の寄贈を受けています。こうした収集活動により、広島県における日本画の歴史のピースを一つ一つ繋ぎ、その全体像を浮かび上がらせようとしています。

加えて、収集した作品を未来へと伝えるため、作品の修復や掛軸の改装など、保存整備にも継続的に取り組んでいます。リニューアルオープンから30年。作品を守り伝えながら、その魅力をこれからも皆様へお届けしたいと存じます。



和高節二《牡牛》1940年

【第4展示室】

第4室 新館時代の30年——工芸の名品、収集の歩み

この展示室では、新館時代の30年間に収集・修復した工芸作品を展示します。

最初に並ぶのは、広島ゆかりの作家の作品です。そのうちの一つ、漆芸家・三代金城一國齋きんじょういつこくさいの10枚組の膳は、5枚ずつ、二度に分けて収集されました。一度目は購入、二度目は寄贈によるもので、このように既存作品が寄贈の呼び水となった例は少なくありません。

続いては、伊万里焼の優品、中央アジアのジュエリーと刺繍袋、日本近代漆芸、民藝運動の作家の作品などをご覧ください。これらは、新館オープンに向けて新たに策定された収集方針「日本およびアジアの工芸」、「1920～30年代の美術」に沿って収集したもので、30年をかけて、国内でもユニークなコレクションへと成長してきました。なかでもトルクメンジュエリーは750件を数えて国内最大で、世界でも有数の数量と質の高さを誇っています。

さて、作品は収集して終わりではありません。美しく安全に展示し、未来に向かって保存していくためには修復が必要です。締めくくりとして、次の30年、50年、100年（！？）を見据えた修復事例を紹介します。

これからも皆様ともに、新たな歩みを続けてまいります。当館の活動を今後も応援いただけますと幸いです。



《伊万里柿右衛門様式色絵馬》
17世紀後半

【ウェルカムギャラリー】

当館では、2021（令和3）年からウェルカムギャラリーを設けています。みなさまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、美術への関心の度合いに応じて選べる作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

ここでは、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせんこ小林千古・みなみくんぞう南薫造・あいみつ愛みつ、日本画家のこだまきぼう児玉希望・おくだげんそう奥田元宋・ひらやまいくお平山郁夫、彫刻家のひらくしてんちゆうえんつばかつぞう平櫛田中・えんつばかつぞう圓鍔勝三、ろっかくしすい工芸作家のろっかくしすい六角紫水・しみずなんざん清水南山・いまいまさゆき今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードとともに、当館が誇る名品の数々をご覧ください。併せて、広島とゆかりのある洋画家のすがいくみ菅井汲の作品もご紹介します。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



【関連イベント】

■講演会「旧館から新館へ—平山郁夫からダリまで—」

1996年の当館リニューアル時に学芸課長を務めた倉橋氏から当時を回想いただきます。

日時：2026年4月26日（日）13:30～15:00

場所：地階講堂

講師：倉橋 清方（元呉市立美術館長、元当館学芸課長）

※聴講無料 ※事前申込不要

■建築ガイドツアー

館内を歩きながら、美術館を建築物としての視点から、設計上の特徴や工夫などを解説します。普段立ち入ることのできないバックヤードなどもご案内する予定です。

日時：2026年5月26日（火）13:30～14:30

集合場所：1階ロビー

定員：15名

講師：山下 和彦（広島県土木建築局営繕課参事）

※要入館券 ※要事前申込（電話 082-221-6246）

■リレートーク

日時：2026年5月29日（金）15:00～（各室10分程度）

場所：2階展示室

講師：山下 寿水（当館主任学芸員）、角田 新（当館学芸員）、

神内 有理（当館主任学芸員）、岡地 智子（当館主任学芸員）

※要入館券、会場入口でお待ちください。

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。（約15分間）

①1室 2026年5月19日（火）17:00～ 講師：山下 寿水（当館主任学芸員）

②2室 2026年6月2日（火）17:00～ 講師：角田 新（当館学芸員）

③3室 2026年6月16日（火）17:00～ 講師：神内 有理（当館主任学芸員）

④4室 2026年6月30日（火）17:00～ 講師：岡地 智子（当館主任学芸員）

公式インスタグラムはこちら



■ワークショップ スザニ刺繍ワークショップ「スザニ刺繍のフレーム」

今回は、当館所蔵の19世紀のスザニの文様を実寸大で刺繍して、スザニ刺繍への理解と技術を高めます。そして、キャンバス木枠を活用したフレームに仕立てて楽しみましょう。また、実作品鑑賞では、染織修復の実例をご覧ください。

日時：・1回目（刺繍開始）：2026年 5月16日（土）13:15-16:00
・2回目（仕上げと作品鑑賞）：2026年 6月 6日（土）13:15-16:00
※受付開始：すべて13:00

会場：広島県立美術館

講師：福田 浩子（当館学芸課長）、岡地 智子（当館主任学芸員）

内容：当館所蔵の中央アジアの刺繍布スザニに用いられた刺繍の体験により、より深い作品鑑賞を行うことを目的にして作品制作を行います。

参加費：無料（ただし、準備物を各自でご手配ください）

材料費：実費（約4,000円以内を予定。木綿布、刺繍糸、キャンバス枠、刺繍針）

※刺繍糸が足りなくなったら各自でご手配ください。



今回のデザインイメージ

申し込み方法

こちらの google form (<https://forms.gle/tNKAv8R7vfJZtMoM9>) からお申し込みください。定員を超過した場合は参加いただける方にメールでお知らせします。

・申込受付期間：2026年4月24日（金）9:00～4月30日（木）12:00

詳しくは当館ホームページの募集要項をご覧ください。



■フリートークデー

5月17日（日）、6月21日（日）、7月19日（日）9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、フリートークデーを実施。当日は下記イベントも併せて行います。

●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。どの作品がプリントされているか、展示室に作品を探しに行こう。

先着：30名

※事前申込不要 ※要入館券

フリートークデー

5|17(日) 6|21(日) 7|19(日)

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう！

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 山下 寿水

総務課 広報担当 一色 直香

公式 SNS はこちらから

